

## 今月号のトピックス

- ・ 現中2紹介、兄妹のみ残席2
- ・ 大学入試改革2020
- ・ 間違いやすい計算問題
- ・ 「本当の学力」という嫌いな言葉

### 現中2紹介、兄妹のみ残席2

お陰様で、現在の中学2年生は満席状態が続いております。しかし、その中でも「〇〇さんの紹介で...」というお問い合わせがいくつかあり、塾生紹介であれば、ということで今までは何とか座席を確保してまいりました。

ただ、現在中2生が30名、今後この学年の座席を増やし過ぎてしまうと、他学年の生徒さんにお通い頂けなくなる可能性が出てまいりました。現中2生はご紹介、ご兄妹に限りあと2名の募集、32名までで完全に締め切らせていただきたいと思います。

32名以降は紹介、ご兄妹問わず、この学年の生徒募集はいたしませんので、ご了承ください。  
(空きが出た場合に限り、募集を再開いたしません。)

中3から山口学習塾に、という方がいらっしゃいましたらお早めにご連絡ください。

## 大学入試改革2020について

変わる変わると騒がれた大学入試ですが、現在のところどうなっているのでしょうか？実は、本当のところを言うと文部科学省自体も迷っている部分が多いなんて話を聞きます。実際、2020年で変わる部分は...

- ①センター試験の代わりに『大学入学共通テスト』が実施。  
※センターと違う所は国語と数学について記述式が導入される。
- ②個別の大学入試では、小論文・面接・集団討論・プレゼンテーションなども実際される。
- ③英語については外部検定試験も導入する。(高校3年時の結果のみ)

当初、話に出ていた複数回受験は先送りになったそうです。英語4技能についても、外部検定試験の結果でプラス配点があるとのこと...。当初の英語が大きく変わる！という雰囲気からはずいぶん大人しくなった気がします。

結局、2020年時点では大して変わらない、と見ている専門家もいるようです。教育評論家の中で言われているのが、2020年から徐々に新しい取り組みを実施して、その中で徐々に改善していく動きになるだろうということです。

つまり、当初言われていたような大改革は少なくとも2020年には実施できないということですね。

そもそも疑問なのが、これだけ大きな話であるにも関わらず、文部科学省のホームページを見ると大学入試改革についての内容は、探さないと出てこないような場所に載っているんですね。本来ならトップページの一番分かりやすいところに情報を載せておくべきような一大事なはずなんです。私個人的な意見にはなりますが、教育の一番トップですら方向性がバッチリ決まってないのですから、われわれは今まで通り地道な力をつけさせる指導、高校入試に勝たせる指導を続けていくしかないのかな、と思います。

英語の4技能だ、アクティブラーニングだ、新しい教育だ、教育改革が叫ばれた当初にずいぶん踊らされた学習塾も多いですが、情報にアンテナをはりつつ、地に足をつけた指導をしていきたいものだと感じています。

# 間違いやすい計算問題

二学期中間テストが終わり、返ってきた解答用紙を見ると数学では計算問題でのミスが目立ちます。基本的にはテストで計算問題のミスというのは1問も許されません。必ず全問正解しなくてはなりません。中3の計算問題でも間違っている内容は中1で習う範囲だったりします。中1で習う計算というのは本当にとっても大事です。ミスが起きやすい問題を見ていきましょう。

よくある間違いパターンその①

$$2 - 3 \times 4 = -1 \times 4 \\ = -4$$

正解

$$2 - 3 \times 4 = 2 - 12 \\ = -10$$

左は先にひき算を計算してしまっています。ひき算とかけ算、どっちを先に計算すると聞かれれば、ほぼすべての生徒がかけ算と答えますが、それでも実際の計算になるとミスしてしまうことがよくあります。

よくある間違いパターンその②

$$(-3^2) - (-3)^2 = 9 - 9 \\ = 0$$

正解

$$(-3^2) - (-3)^2 = -9 - 9 \\ = -18$$

指数の計算は中3でも解き方を正確に理解していない人が多いです。指数がかっこの内側にあるか外側にあるかで答えが違ってきます。

$$(-3)^2 \text{ 外にある!!} \quad (-3^2) \text{ 内側にある!!}$$

左の答えが+9で右の答えが-9です。

よくある間違いパターンその③

$$2 \div b = \frac{b}{2}$$

正解

$$2 \div b = 2 \times \frac{1}{b} = \frac{2}{b}$$

左はわり算をかけ算に直さずに計算することによって起きてしまうミスです。わり算はかけ算に直して計算する。この解き方が身に付いていると中2、中3になったときに苦労せずにすみます。

ほとんどの中学生がこれを見て「そんなの知ってるよ。」と思うでしょうが、それでもこれらのミスをしてしまう生徒は非常に多いです。ミスをなくすためにはたくさん計算問題を解くことと、こういったミスがおきやすいということを知っておくことが非常に重要になってきます。(樋口)

# 「本当の学力」という嫌いな言葉

「本当の学力」という言葉を平気で使う塾の先生がいます。恥ずかしながら私は教育業界に身をおきながら、この「本当の学力」という言葉の意味がいまだに分かりません。分からない、というよりも私はこの「本当の学力」という言葉が大嫌いなんです。

なぜなら、この「本当の学力」という言葉の裏には「成績を上げることが学力ではない。」「点を取るだけの勉強では将来に役に立たない。」という言い分が隠れていることが多いからです。

塾講師が「本当の学力」を語る姿を見ると、「そういうことは、まず成績を上げるような指導をしてから言え!」と心の中で叫んでしまいます。まず「点を取るだけの勉強」も指導することが出来ない人間が、偉そうに「本当の学力」なんて言葉を使うんじゃない!そう思ってしまいます。(私もまだまだ未熟ですが...)

「本当の学力」を主張する塾講師たちにはっきり言ってやりたい。「点を取るだけの勉強は素晴らしいのだ」と。

彼らはおそらく知らないのです。「点を取るだけの勉強」がどんなに大変なのか。「点を取るだけ」のために生徒たちが、どれだけのことを我慢し、どれだけのことを犠牲にしなければいけないのか。「点を取るだけの勉強」の中で、生徒たちがどれだけ自分の甘さに気づき、弱さに気づき、悲しんだり、打ち砕かれたりするかを彼らは知らない。

「点を取るだけの勉強」に徹し、結果を出したときに、どれだけ生徒たちが自分自身を誇れるようになるか、きっと彼らは知らないのです。

「点を取るだけの勉強」=「思考力がつかない」と結論付ける人間がいます。馬鹿なことを言っちゃいけない。ふざけるな、と。450点以上を目指す「点を取るだけの勉強」に思考力がないなんて、よく言えたものだとは私は呆れます。自分の弱点、自分の性質、時間の使い方、点を取るための最短距離、思考して思考してようやくたどり着ける点数なんです。

「はい、今日はこのテーマについて話し合おうね。お互いの意見を出し合おうね。」それが思考力を鍛える学習だというなら、ずいぶんレベルの低い話だと私は思います。「点を取るだけ」それに一心不乱に打ち込むのなら、思考力も忍耐力も集中力も鍛えられます。「点を取るだけ」それを極めようと努力を重ねるのなら、「点を取るだけ」なんかに止まらないのは明らかなんです。

(今回は少し感情的な文章になってしまい不適切な表現もあるかもしれませんが、ご了承ください...。)